

シリーズ

ひらつかの年中行事 ⑩

雨乞い

農作物に水は欠かせず、多くの水を必要とする稲作では、日照りが続くと思うように田植えができません。畑作でも夏に雨が降らないと、オカボ、サトイモ、サツマイモなどに被害が出ました。いよいよ困ると、かつては雨乞(あまご)いといって信仰の力で雨を降らせようとしてきました。

雨乞いの方法は、靈験あらたかな寺社へ行って水をもらってくるのが最も多く、市内では大山の阿夫利神社をはじめ、鎌倉市七里ヶ浜の田辺ヶ池、箱根権現などへ行きました。ムラの代表者が大山の阿夫利神社で祈禱をうけ、鈴川源流の二重の滝から水を竹筒に入れて持ち帰り、ムラの鎮守や田畑、用水路などへ撒いて祈願しました。大山からの帰路に立ち止まるとそこで雨が降ると信じられたため、一目散に戻ったりリレー式に受け継いだりして水を持ち帰りました。

やや変わった雨乞いの方法を紹介します。岡崎の大畑では円徳寺に石造の雨乞い地蔵がまつられています。戦前までは、この地蔵を担ぎ出して鈴川の大正堰の上に沈め、雨が降るまで毎夕土手で念仏を唱え続け、雨が降ったら地蔵を引き上げてムラを練り歩いて寺へ納めました。

土屋の惣領分では、駒ヶ滝の上部に龍を彫った俱利伽羅(くりから)不動の石像が祀られており、この石像を滝壺に投げ込んで雨乞いをしました。一方で、秦野市葦毛の



土屋の駒ヶ滝



岡崎の雨乞い地蔵



俱利伽羅不動

神社から水をもらってきて滝の水と混ぜて一升瓶に入れ、瓶に浸した竹笹を振りながら「大雨たった、降りたった」と唱えて惣領分中を練り歩きました。それでも降らない場合は、さらに箱根権現の水をもらってきて滝に注いで同様に練り歩き、雨が降ったら龍の石像を元へ戻しました。惣領分ではこうした雨乞いを昭和 40 年代まで行っていました。

地蔵や不動といった仏を川や滝に沈める行為は、神仏を不自由な状態にしたり怒らせたりすることで霊力の発動を促し、むりやり願いを叶えさせようとするものです。また、一回の雨乞いで降らなければ、もっと遠隔地へ水をもらいに行く、あるいは念仏を唱えるというように、雨乞いは段階を踏んで複数の方法が採られました。現在も金目川水利調整委員会では毎年 7 月下旬に春岳山へ登山し、金目川の水源地で降雨と豊作の祈願をしています。



金目川水源地で祈願

(博物館学芸担当)

第 59 回平塚市文化祭を開催します

開催日、内容等は下記のとおりです。文化と芸術の秋を楽しんではいかがでしょうか！

展示発表		
開催日	内容	開催場所
10月12日(木)~16日(日)	書道、工芸	美術館
10月13日(木)~16日(日)	華道展	中央公民館
10月18日(火)~23日(日)	絵画・彫刻・写真	美術館
11月3日(木・祝)	鉄道模型展	中央公民館
文芸大会等		
開催日	内容	開催場所
10月29日(土)	俳句大会	中央公民館
10月30日(日)	短歌大会	
11月3日(木・祝)	茶会	
12月4日(日)	ビデオ映画発表会	
	川柳大会	
		誌上大会

舞台発表		
開催日	内容	開催場所
10月15日(土)	日本舞踊	中央公民館
10月16日(日)	剣詩舞道、詩吟	
10月22日(土)	洋舞	
10月23日(日)	フラダンス	
10月23日(日)	謡曲	
10月29日(土)	西洋音楽	
10月29日(土)	琵琶	
10月30日(日)	三曲・長唄	
10月30日(日)	奇術	
11月3日(木・祝)	民舞・民謡	

平塚市文化祭(公募展)の作品を募集します！

- 応募資格 15歳以上(但し、中学生は除く)
- 応募部門 絵画・彫刻・写真
- 参加料 1人 1,000円
- 搬入日 10月1日(土) 午前10時から正午に中央公民館へ
- その他 応募要項は公民館等に置いてあります。
- 問い合わせ 社会教育課 社会教育担当(35-8123)



平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活かされます。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

文化・交流課
0463-32-2235